

龍崎 滋 議員活動報告 Vol.1



この度の館山市議選では、大変多くの方々のご支援をいただき、お陰さまでふるさと館山の市政に参加することが出来ました。本当にありがとうございました。5月1日より議員活動をスタートし、まもなく3ヶ月が過ぎようとしています。去る6月13日の第2回定例会本会議では、緊張の中で初めての行政一般通告質問をしました。多岐にわたる館山行政の問題点を、どのような観点で切り出し指摘していくかが大きな課題です。同時に市民の皆様のご意見を届ける大切な場として、さらに真剣に取り組んで参ります。

発行者：館山市議会議員 龍崎 滋 千葉県館山市広瀬 755 電話 0470-36-2654

〇あとがきにかえて

今回は東日本大震災に関連する防災関係の質問が、複数の議員から出されました。私も市民の皆様から寄せられた防災対策に関する意見・要望を質問の第一点目としました。

今までの想定が全く通用しない事態が起こりうるという事や、実際に災害が起きた場合、現在の防災体制が非常に危ういということが、今回の経験により判明しました。

そして、大変大きな犠牲を払った代償として、全国的にしっかりとした防災体制の見直しと対策が必要であることも認識しました。今後、国や県から見直しに関するガイドラインが示され、館山市もそれにそって秋頃に行うとの事ですが、まだ記憶に新しい今こそ、アンケートや地域懇談会等で情報収集の必要を訴えました。

次に、館山市の産業の活性化を、自身が従事してきた農業の分野から問いかける事にしました。これは、雇用の拡大と関連して、「元氣な館山」のキーポイントとなる事柄です。平成二十一年度「館山市市民意識調査報告書」では、雇用の拡大や地域産業の活性化に対して市民は、一番不満を抱いているとの結果がでました。

今、若者の雇用拡大と地域産業における新分野の開拓は喫緊の課題で

す。これらを具体化するための取り組みを議員活動の中心に置きたいと考えております。

最後に館山市の高齢者問題を、老人クラブの衰退という状況を指摘して質問としました。同時に、行財政改革委員から答申を受けた老人センターの廃止に対し、代替案の提示を求めました。いかに財政の厳しい中であつても、市民サービスの低下をとまらぬ改革は慎重に行うべきであると思ひます。

超高齢化社会を迎えようとする中で市民相互の、とりわけ高齢者のコミュニケーションが失われていく現象は、今後さらに推進すべき高齢者保健福祉計画と逆行するものです。「高齢者見守りネット」も、まず「支え合う心」を作ることからスタートすべきでしょう。今後は市の行財政について更に学びながら問題点を見出していきたいと思います。また、市民の皆様身近な問題の解決に携わること重要な仕事であります。

本紙「議員活動報告」は、私自身の議会活動を中心に、党員、支持者の皆様のご意見、ご要望などを踏まえ、しっかりと情報発信していく予定です。年四回程度の発行を考えております。また中面カミの「中道」では私個人の思いを所感の体裁で書かせて頂くつ

〈声〉 さわやかな姿勢に感動

那古在住 Y・F (主婦六五歳)

私は、これまで幾度となく議会の傍聴をしてきました。四月の市議選後初の定例会は今までになく傍聴者も多く、様々な課題を抱える館山市政への市民の関心の高さを思いました。私のお目当てはもちろんわが党の新人議員。四目目に登壇した龍崎議員は、先ず東日本大震災の被災者に対する丁寧なお見舞いの言葉から始まりました。本質問は支持者の声を反映しつつも内容に無駄が無く、再質問を含め時間内にピッタリ納まりました。その姿勢と内容といい、けして最良目(ひいきめ)ではなく、これまでになく、とても爽やかな感動を覚えました。

ました。帰路、知人で市の関係者から突然電話を頂きました。いわく「龍崎議員の質問の仕方、態度、内容等、素晴らしかったですね。新人議員の方々にとつても、議会のあり方においても今後の模範を示して頂いたと思います。」と。

支持者にとつてこれほど嬉しい励まし言葉はありません。私はそのことを行く先々で、友人知人に話さずにはいられませんでした。館山市議会が始まって以来最高票のトップ当選を果たした龍崎議員の双肩には、一九三九人の期待が重くのしかかっています。逆風もあると思ひますが、むしろそれを追い風にかえながら、市民一人ひとりが幸福を実感できる明るい街づくりを期待しています。

〇龍崎 滋プロフィール

一九五四年館山市広瀬生まれ。安房高、専修大学卒。農産物直売所「なの花村」代表。農産物直売所連絡協議会会長。田のくろ大学校(農業体験)代表。

平成二十三年館山市議会議員初当選一期【議会役職等所属委員会】

- ・ 議会運営委員会委員
- ・ 建設経済委員会委員
- ・ 農政審議会委員
- ・ 消防委員会委員
- ・ 公有地有効活用等調査特別委員会

もりです。標題の「中道」は、両極端を離れた中正公明な道という字義があり、実践的には社会の繁栄と個人の幸福が一致する社会の建設を目指すことにあります。「中道主義」「人間主義」でもあり、公明党の立党精神となつていきます。様々な意見に耳を傾け、より多くの賛同を得られる道を選択することこそ民主主義であると思つています。本紙を読んでのご意見、ご感想、その他なんでもお寄せください。

〇第二回定例会(六月十三日)の主な議決内容は次のとおりです。

- ・ 館山市公民館条例の一部改正(行財政改革方針の取り組みとして公民館使用料の有料化)但し老人クラブの利用は無料、市内サークル活動半額。
- ・ 館山海軍航空隊赤山地下壕跡の設置及び管理に関する条例の制定について「入壕料などの必要事項を定める条例を制定」。
- ・ 平成二十三年度館山市一般会計補正予算(補正として歳入歳出それぞれ一億六三万一千円を追加、総額一六五億五四四万四千円とする。歳出の内容は民生費、衛生費、労働費、商工費、教育費等)。
- ・ 平成二十三年度館山市国民健康保険特別会計補正予算(歳入歳出それぞれ二億五五八万円を増額し、総額六三億八五二万九千円とする。〔詳細は館山市広報に〕)

●平成二十三年度第二回館山市議会定例会 龍崎滋 一般質問通告内容と答弁 (要旨)

一、館山市地震・防災対策について
先の東日本大震災の災害状況は日本各地のみならず、館山市においても従前の防災対策を見直す必要があることを認識させました。そこで市民の要望を受け、次の五項目についてお尋ねします。

①今後の館山市の防災対策の検証・見直しについて

防災対策の検証・見直しの必要を感じますが、市としてどのように行うか、今後の予定について伺います。また、市民の意見・要望をどのように受け止めるか伺います。

◎答弁：震災後、自主防災会・町内会へのアンケート調査を実施。今後、国・県の方針に沿って順次対策を検討。

②自主防災組織について

地域防災の重要な役割を担う自主防災組織ですが、その現状について市がどの程度、把握しているか伺います。現在一五五町内会の内防災組織は一七七団体です。災害発生時に行政との連携を計るために組織表もしくは具体的な行動計画等の提出を受けているでしょうか。また、より実践的な組織とするためのアドバイスや行動マニュアルの作成配布についてどのようにお考えでしょうか。

◎答弁：初期活動に重要な役割の自主防災組織について新たな組織づくりと訓練等の指導強化を行う。

③災害時の企業との協定について

災害時の企業との協定は建設組合等、複数と結ばれておりますが、災害発生時から復旧に至るまでの多角的な救援措置を講ずるため、新たな業種・事務所との協定が必要と思ひます

が、いかがでしょうか。

◎答弁：今後更に協定拡大を検討、自主防災会レベルも重要であり推進を考える

④防災教育の必要性について

連日の悲惨な報道の中でも、手本とすべき事例がありました。「釜石の奇跡」と名付けられた岩手県釜石市の小中学生の避難行動であります。館山市としても地域別の防災マニュアルやガイドマップを活用し、小中学生から防災の意識の高揚と避難行動の適正化を図つてはかがでしょうか。

◎答弁：各学校毎に新たな避難場所などを考えながら避難訓練を実施する。

⑤校舎の耐震化について

市内の学校施設の多くが避難場所に指定されています。子供達の勉強している校舎・教室の耐震化については保護者の方から、大丈夫かとの問い合わせもありません。現状と今後の対応について各家庭にも報告をし、理解を願うことは大切だと思ひます。

この耐震化を進めるにあたり、平成二十四年度の予算の策定をめぐり国の補助金獲得のための申請をされたのでしょうか。

◎答弁：現状はホームページで開示。今後、平成二十七年に一〇〇%耐震化終了の方針に沿って順次進めていく。